

## お浣腸願望

敬子は明るい太陽に誘われ庭に出てみました。

大きく深呼吸をし大きく伸びをしたあと、並んでいる鉢植えや庭木に水遣りをしていると、ふと、感じる事があります。

それは、いつのまにか三十八歳になってしまい、熟女などと言われるアラフォー世代になった事です。

身体にも少しづつ脂肪がついて、乳房もうお尻も大きくなり、身体からも成熟した女の匂いが出てきます。もう自分は若くはない熟年なのだと言わなければならないこの頃なのです。

最近、主婦の安穏な日々慣れてしまつて、自分が女だということを、忘れかけていないのかと、時々気になるようになりました。

家にいる主婦の日々の決まった生活が、そうさせるのでしょうか。

結婚当初は、女としての意識を強く持つていて、美しく淑やかな妻で居ようと気を遣っていました。結婚して十五年も経つてしまうと、主婦の生活が板についてしまい、女として大事な女らしさや淑やかさを、失くしているのではないかと、気になり出したのです。

それでも、夜になつて寝室に入れば、妻の当然の務めとして主人に抱かれます。

夫婦のセックスは結婚以来日常的なことなので、抱かれれば夫婦の絆を強く感じ、嬉しさや悦びも十分感じています。

それにこの頃は、喜びを一層強く感じるような身体になっているのです。

でも最近、主人にの好きな様に身体を扱われていても、新婚の頃のように身体が紅くなるような恥ずかしさ、激しい羞恥心を感じる事は無くなつていて、夫婦としても習慣的なセックスだと感じるようになり、何かマンネリのような物足りない思いをすることがあります。

この物足りなさは、三十八歳にもなつた妻として、今が熟れ切つた身体になりながら、恥じらいがない鈍重な女になつていよう。この頃はただのおデブになつた様な気分。主人に飽きられている気がしています。

「あの頃は何をされても恥ずかしくって、毎日の気持ち弾んでいたわ！」

お昼間に家事をしながら、夜の主人の事を思っ、下着を濡らしていたのもその頃だった。

「そのパンティを主人に見られて、お尻をお仕置きされたりして！ あの頃の事は本当に懐かしいし、今思うと若くてとっても自分が可愛らしくて、本当に恥ずかしくなるわー！」

敬子は新婚当時の事を思い出しながら、現在の自分の事を考えます。

四十近くなると、女は厚かましくなつて、女の慎みや恥じらいを忘れてしまうのでしょうか。

特に結婚して主婦になると、その傾向が強くなると思います。

同窓会などでお友達と会つたりすると、未婚のお友達と結婚している主婦との違いがよく見えます。

上辺を飾っていても、立ち振る舞いに慎みや恥じらいが感じられない主婦が多く、きつと主婦の座にとつかり座つてしまつて、日常の中に埋もれているのでしよう。

でもそれは、それぞれの旦那様の妻の躰け方によつて、違つて来るのかもしれませんが。

先日、お友達と京都と奈良に旅行して帰つた日、待つていた主人にその夜激しく抱かれた時の事でした。

三日ぶりでお股を開けられて色々主人に悪戯された時、とても恥ずかしい感じがして、すごく感じてしまいました。

それは、旅行から帰つたばかりで、普段の夜のセックスではなかつたので、新鮮に感じたのでしょうか。

でも、私が恥ずかしく感じた事は他にもありました。

それは、旅行の前から旅行中も1日もお便秘だったからです。

この身体で主人に抱かれる事は、この上なく恥ずかしいと思つていたので。

「もしお尻を悪戯されたりした時、オナラの粗相などしたらどうしましょう！ お腹も膨れているし、上から押されたら…ッ！ もう恥ずかしくつて！」

その心配や恥ずかしさのためか、主人にお股をあげられたとき、淫部をしつかりと濡らしてしまつていたので。

主人はとても喜んで、前からも後ろからも色々体位で責められてしまいました。

正常位の時に両脚を担がれて、上から押しつぶされて、激しく突かれた時は、オナラが出そうになり、死ぬ気で肛門を閉めて我慢しました。

でもパンツ！パンツ！パンツ！と早く突かれると、詰まったお便秘が押し出されて肛門が開きそうになつて、

ギュッと主人の物を締めて我慢しました。

後ろから深く入れられた時はもつと恥ずかしくて、突かれる度にオナラの粗相をしないか、主人の目の前で震えているお便秘の肛門に、もし指でも入れられたらどうしようとお尻を締めるたびに主人の怒張を強くお股で感じてしまい、愛液が溢れ出してしまうのです。

最近はおセックスを想像しただけでお股を濡らしてしまう感じ易い身体になっています。

お便秘のまま抱かれたセックスでは、粗相の心配から羞恥心が強く出て、いっぱい感じてしまったことに気がつきました。

それは、結婚当時の初心な恥ずかしさよりも、何か違った大人の羞恥心、熟女の身体の恥ずかしさを強く感じながら、主人に抱かれたのです。

旅行から帰った夜、待っていたかのように私を抱いた主人は、本当に男らしく逞しい力で、私の熟れて濡れる股間を貫いてくれました。

私はお股を大きく開き、鳴きながら愛液をいっぱい出してそれに迎えたのです。

最後は夫婦同時に高みに達して、二人で共に叫びながら絶頂を迎えることができました。主人は愛の終わりに、深く長いキッスで私の余韻をフォローしてくれたのです。

私は若い時から体質的なお便秘がその後も続いていて、主人に時々お浣腸してもらおうようになりました。

主人のお浣腸とお便秘の排泄の時間は、女として本当に恥ずかしい思いをさせられます。

それは妻として主婦として、忘れてしまった羞恥心をもう一度思いだすよに主人にお浣腸で躡けられているのだと思うようになりました。

この頃は日常の立ち振る舞いや、夜の寝室などで、私が女らしいお色気を出すようになったと、主人は大変喜んでおられます。

これもお浣腸の躡けのお陰だと、主人に感謝するこの頃です。

敬子は今、お生理前の四日目のお便秘になっていて、今夜にも旦那様にお浣腸してもらい、イヤイヤして鳴きながらお便秘を出されて、泣いて甘えてたいと、期待しているのです。